



病院長からのメッセージ

「ふれあい地域医療センター」

病院長 泉 良平

9月3日から、玄関ロビーにて「ふれあい地域医療センター」の業務を開始致しました。地域医療連携室と医療相談室を統合したこのセンターでは、患者様や地域の医療機関の皆さまに、きめ細かい医療サービスを提供致します。

富山市民病院は、地域完結型医療を提供することを事業の中心としています。地域を一つの大きな病院と考え、地域の医療機関と役割を分担して、皆さまの健康をお守りします。そして、富山市民病院は主に急性期の医療を提供する役割を担います。

地域完結型医療を提供するため、地域医療連携室では地域医療機関と富山市民病院との連携業務を行っています。紹介患者様の診療支援や入院患者様の転院相談、当院から地域医療機関への紹介業務などを行っています。インターネット（たてやま医療連携ネット）や電話・ファックスによって、地域医療機関から紹介予約を受け付けています。インターネットでは24時間予約可能であり、電話やファックスでは、平日の開業時間と土曜日午前に予約を受け付けています。予約患者様については、あらかじめ紹介を受ける医師に連絡をし、時間予約を行うことも出来ます。また、病院を訪れた紹介患者様を、診察を受けていただく診療科へご案内し、スムーズに診療を受けられるようお手伝いしています。その他、CT・MRIなどの検査予約も受け付けています。

退院後、十分な療養が自宅でできるようにするには、訪問看護や在宅診療などについて、きめ細かい配慮をしておく必要があります。地域医療連携室では医療相談室と協働して在宅療養に必要な問題点を整理し、介護保険制度や在宅サービスなどの社会資源の説明、かかりつけ医

や地域包括支援センターへの連絡などを行っています。

また、富山市民病院での治療にて病状が安定した方を、病院から診療所に紹介する際の情報を医師・看護師に提供しています。富山市民病院では、退院後も診療所医師と共同して診療を行うための共同診療カードを発行しています。このカードをお持ちいただくことによって、診療所からの紹介や緊急時の診療を円滑にうけていただくことができます。このシステムの説明・カードの発行を地域医療連携室にて行っています。また、地域医療機関との交流会や症例検討会・研修などのご案内を行っています。

医療相談室では、医療ソーシャルワーカーが医療に関する社会福祉制度の利用に関する援助を行っています。生活保護の申請、身体障害者手帳交付や年金申請、特定疾患申請の援助などを行っています。また、がん患者様のセカンドオピニオン外来受診の調整を行います。さらに、本年2月にはがん診療連携拠点病院となったことから、がん医療について適切なアドバイスを行う体制を整備しています。

地域医療連携室と医療相談室は多くの業務を協働して行っており、円滑に業務を行うために統合することと致しました。紹介状をお持ちの患者様は、まず、このふれあい地域医療センター窓口へ来ていただけます。また、退院の際に援助が必要な方もこのセンターに来て頂くことになります。がんに関する相談につきましても、この部署で行います。スタッフが連絡を密にすることによって、これまで以上に良質の医療サービスを提供することができると思います。ご遠慮なく、医療に関する問題についてご相談ください。笑顔で、スタッフがお待ちしています。

目次

■病院長からのメッセージ 「ふれあい地域医療センター」 病院長 泉 良平	1
■部門紹介 中央放射線部 放射線技術科③	2
■連載 健康レシピ⑥ 栄養科 「さつまいもとじゃこのご飯」	3
■イベント 「そば打ち実演」	3
■特集 ふれあい地域医療センター	4
■連載 医事課② 「交通事故の治療費」	5
■レポート 「新潟県中越沖地震医療支援記」 朱亀進司	6
■院長への手紙 ご意見とお答え	6
■連載 ボランティア・エッセイ38 「力戦奮闘」 病院ボランティア 石森貞夫	7
■イベント 「デイケアコンサート」	7
■今月のふれあいギャラリー	8
■今月のイベントと院内の動き	8
■編集コラム	8



部門紹介

中央放射線部 放射線技術科(3)

今回は放射線技術科の3回目の紹介になります。
放射線治療、血管造影検査の部門を紹介します。

《放射線治療》

放射線治療は、手術、化学療法と並ぶがん治療の3本柱の1つです。また、高齢者に優しい治療法でもあります。

当院では、2003年に新しい放射線治療システムを更新・導入しました。

システムは、リニアック（放射線治療装置）、治療計画装置、CTシミュレータ（治療位置決め用CT装置）、その他には数々の精度管理機器があります。各装置は、ひとつのネットワークで結ばれており、CTシミュレータからの情報がまず治療計画装置に送られ、治療計画後にリニ

アックへと送られて治療が行われます。当院では、定位放射線治療（ステレオタクティック ボディフレームという専用の固定具を用いて病変に局限して通常よりも多い線量を多方向から照射する治療法）も行っています。

年々、放射線治療は精密、高精度化し治療部位をピンポイント（限局化）で照射できるようになってきました。これらの治療のためには、X線および電子線のエネルギーと線量を高精度な測定機器を用いて精度の維持に努めなければなりません。



同様に日常の機器管理、研修が必要です。照射線量に関し安全を考慮してコンピュータのみに頼らず、手計算によるダブルチェックも行っています。

放射線治療についてわからない点があれば遠慮なく当院の治療スタッフにお尋ねください。

《血管造影検査》

血管造影検査は、カテーテルと呼ばれる細い管を血管内に挿入し、そのカテーテルの先を目的の血管まで送り、特定の血管のみに造影剤を注入して撮影を行う検査になります。こうして血管の形態、血流状態を連続的に撮影することにより、腫瘍の大きさや形態、出血の原因等を診断する検査法です。

最近では、診断だけではなく、治療も同時に行うことが多くなっています。この検査は、医師だけでなく、放射線技師や看護師、検査技師などの様々な職種の連携により行っています。

★頭部血管造影検査

脳動脈瘤、脳動静脈奇形、くも膜下出血、脳腫瘍、脳梗塞、脳出血などの診断・治療などに行われます。

★腹部血管造影検査

肝臓などの腫瘍部位・及び周囲の血管形状や流れを観察できます。さらに、腫瘍部位に塞栓物質を入れて血流を止めたり、直接抗がん剤を入れ治療を行うことができます。

★心血管造影検査

心臓に栄養と酸素を送っている冠動脈の狭窄や閉塞により、心筋梗塞や狭心症といった病気が引き起こされます。そのような疾患が疑われる場合、冠動脈の狭窄や閉塞の有無を調べます。狭窄などがあれば、バルーンでふくらませ、ステントを留置することで血流を改善する治療を行っています。



頭腹部血管造影装置



心血管造影装置

連載 健康レシピ⑥

「さつまいもとじゃこのご飯」 (栄養科)



まだまだ残暑の
厳しい9月ですが、
朝夕は涼しく、秋を
感じる気候になり
ました。これからは
様々な作物が豊富
に出回る時期です。特に、さつまいもは収穫時
期を迎えるので、いろいろな料理に取り入れて
みましょう。今回のレシピは、さつまいもの甘み
とじゃこの塩味が絶妙なバランスの炊き込み
ご飯です。



作り方



① 米をとぎ、さつまいもは1cm幅のサイコロ切
りにする。



② 炊飯器に米を入れ、3合の線まで水を加
える。だし昆布をひ
たし、Aを加え、ざつ
と混ぜる。



③ さつまいもとじゃ
こを加え、炊く。

※さつまいもの
皮はよく洗っ
てそのまま加
えるときれい
な色に仕上が
ります。



材料(4人分)

米	3合
さつまいも	300g
じゃこ	大さじ4
だし昆布	1枚
A	
酒	大さじ3
みりん	大さじ1.5
塩	小さじ1

★栄養Q&A

日頃よく耳にしたり目にしたりする栄養や食
品に関する疑問にわかりやすくお答えします。

Q：“さつまいも”と“若返り”の関係について？

A：さつまいもには、体の若返りを促してくれる
栄養素が多く含まれています。

①ヤラピンでおなかすっきり！

切り口から出ている乳白色の液体に含まれる
ヤラピンには、腸の蠕動運動を促し、便秘解消の
効果があります。食べた後に良く出る「おなら」
は、大腸の働きを活発にしてくれていることを
示しています。

②サツマイモのビタミンCは熱に強い！

サツマイモに含まれているビタミンCは澱粉
質に覆われている為、焼きイモなどにしても、壊
れにくく、茹かキャベツの1.5倍量に相当します。
また、肌の張りを良くする“コラーゲン”の生成
を助けてくれます。

③皮に含まれる抗酸化物質！

サツマイモの皮には活性酸素を除去してくれ
る抗酸化物質（クロロゲン酸）が含まれていま
す。皮ごと調理して食べると良いでしょう。

旬の作物は、特に栄養価が高く、味も良
好です。今月号のさつまいもも、蒸す・煮
る・焼く・揚げるなど、様々な料理に取り
入れて美味しく食べましょう。

イベント そば打ち実演！ (栄養科)

栄養科ではそば職人による「そば
打ち実演」を8/21～8/23日に実施し
ました。21日は4・6階病棟デイルーム、22日は8階病棟デイルーム、23日
は南4階デイルームと東3階プレ
イルームで実演しました。

昼食配膳前に患者様やそのご家族
の方にそばの由来やおいしい食べ
方の話しなどをまじえながら30～40
分そば打ちを楽しんで頂きました。見
学者の中からはいろいろな質問が出
たり、実際にそばを切る作業を体験
し、「お昼が楽しみ」とわいわいとぎ
やかに話しが弾み和やかな雰囲気

に包まれました。昼食には打ち立
てのそばをお出し、「手打ちそば
はやっぱり美味しいですね」との意
見をいただきました。患者様から
はうどんやラーメン、お寿司、まぐ
ろ解体など楽しいイベントのリクエ
ストもいただいております。食べる喜びや
食欲意欲の向上に結
びつけることがイベ
ントの最も大きな役割だ
と考え、楽しいイベ
ントを継続していきたい
と思います。



当日の手打ちそばメニュー

次のそば打ちイ
ベントは10月です！

16(火)・17(水)・18
(木)に予定してい
ます。

お楽しみに！

特集

ふれあい地域医療センター



当院では、様々な取り組みを通じて、地域医療機関の方々と協同して皆様の健康をお守りしています。地域完結型医療を提供するには、病院内はもちろん、地域の医療機関や介護施設などの医師や看護師、介護支援専門員等の皆様との円滑な連携が欠かせません。今まで当院では地域医療連携室と医療相談室がその役割を担ってきました。今回、患者様はじめ市民の皆様により細やかな医療サービスを行うことをめざして、その機能を統合し、「ふれあい地域医療センター」と命名して業務を行うこととなりました。

《ふれあい地域医療センター》の主な役割

- ① 紹介患者様の予約や受診当日の受付
- ② 療養に関する相談
- ③ がんに関する相談(がん相談支援センター)

具体的には次の業務をおこないます。

- ① 地域医療機関からの紹介患者様の診察や検査の予約を承ります。紹介患者様が受診される当日は、受診科の受付を行います。当院に初めてお越しになられた方やお荷物の多い患者様は、診療科の外来までご案内いたします。
- ② CTやMRI、内視鏡などの検査の予約を承ります。特にご希望の多いCT検査は、お仕事が忙しく日中に検査のための時間がとれない方のために、時間外のCT検査予約も行います。
- ③ 当院から診療所へ紹介させていただく患者様のなかで、当院と診療所と共同で診療を行う方については「共同診療カード」をお渡しいたします。
- ④ 通院中の方や退院後の療養について、専任の看護師やソーシャルワーカーが相談に応じます。場合によっては地域の介護支援専門員や訪問看護師の方々と密接に連携して療養体制を作るお手伝いをいたします。
- ⑤ がんに関する様々な相談に応じます。(当院はがん診療連携拠点病院の指定を受けています。がん相談支援センターとして当院に受診されている方の相談はもちろんのこと、当院に受診されていない方々の相談にも応じます。)



スタッフの紹介

ふれあい地域医療センターのスタッフは医師(兼任)・看護師・ソーシャルワーカー・事務員という職種で構成されています。

ふれあい地域医療センターのスタッフは「笑顔」をモットーに、皆様との《ふれあい》を楽しみにしています。どうぞ、ご遠慮なくお気軽にお越し下さい。

患者様サービスのさらなる向上をはかり、病院と地域の医療・福祉・介護施設との架け橋になります。
(置塩, 医師)

新たな施設で、スタッフ一同迅速に対応させていただきます。ご利用の程よろしくお願いたします。
(青山, 医師)

さらに皆様の身近な存在になることをめざしています。
(福島, 医師)

お気軽に相談にお越し下さい。また、ふれあい地域医療センターへのご意見もお寄せ下さい。
(高畑, 看護師)

安心感、笑顔、思いやりを心がけ、様々なご相談に対応いたします。
(大田, 看護師)

気軽にお声をかけてください。コンシェルジュをめざします。
(谷山, 看護師)

笑顔で気働きができるよう心がけます。
(扇原, 看護師)

患者・家族の皆様の気持ちに寄り添う相談を目標にしています。
(岩田, ソーシャルワーカー)

常に「親切・丁寧な対応」をモットーにがんばります。
(永井, 事務員)

さわやかな対応を心がけます。
(広田, 事務員)

分かりやすい説明を心掛け、ご相談に応じてまいります。(八木, ソーシャルワーカー)

思いやりの言葉を持ってつとめます。
(尚和, 事務員)

笑顔でゆとりある対応をいたします。
(中田, 事務員)

皆様のお立場に立った対応を心掛けます。
(湯川, 事務員)

笑顔で対応いたします。
(古山, 事務員)

連載

「交通事故の治療費」 (医事課)

救急で交通事故の治療を受けられる場合、市民病院では原則として健康保険を使用せずに自由診療で治療を行いません。なぜかといいますと、健康保険はそもそも自分でケガや病気になったときに備えて被保険者が保険料を支払って加入しているものです。もし交通事故で加害者の過失が100パーセントの場合、事故によるケガの治療費などは加害者が全て賠償すべきであるからです。そのようなことから交通事故の治療は、自由診療で行いません。

健康保険を使用した治療の場合、治療費の基準となる医療点数の単価は、全ての病院で1点あたり10円と決まっています。それに対して自由診療の場合、医療点数の単価を病院ごとに決めることができ、市民病院では、24時間の救急医療体制を維持していくための経費などを踏まえ、1点あたり15円で計算しています。そのため、治療点数が1万点の場合、治療費は健康保険が10万円ですが、自由診療の場合15万円になります。

ただし、交通事故の治療であっても健康保険を使用できる場合もあります(業務中・通勤途中の交通事故の場合は労災保険を使用します)。特に、被害者の過失が大きい場合や単独事故の場合、健康保険を使用した方が患者さんの自己負担額は少なくなります。ただし、健康保険を使用する場合は、必ず保険証の発行機関に使用についてお問い合わせください。第三者の行為による傷病である旨の届出が必要となる場合があるからです。必要な手続きが行なわれなかった場合、健康保険の使用ができない場合もありますので、必ず届出をしてください。

また、交通事故の場合、警察や保険会社から、市民病院に患者さまの治療について照会(容態や治療内容、入通院に要した日数及び治療費等)があります。診療情報は個人情報ですので、これらの情報を警察や保険会社に提供することへの同意書を提出していただくことになりますので、ご協力をよろしくお願いたします。

去る7月16日午前10時13分、新潟県中越沖を震源とするマグニチュード6.8の地震が発生し、震源に近い新潟県柏崎市では震度6強の揺れを観測した。地震の発生からしばらくすると、倒壊した家屋など地震の被害を報じる映像がテレビで全国に流れ、物的な被害と共に被災した方々の健康が心配された。

富山市民病院でも、7月24日から26日までの3日間、医療支援チームを派遣する決定がなされ、医師1名、看護師2名、薬剤師1名、事務職1名、運転手1名の計6名のチームを編成した。

派遣初日の7月24日午前5時に被災地へ向け病院を出発したが、被災現場に近づくにつれ、道路に出来た段差や陥没が多くなり、地震の規模の大きさを改めて実感した。柏崎市内に入ると倒壊の危険を知らせる赤い紙が張られた家屋が目立つようになり、特に海岸部近くでは道路をふさぐように倒壊した家屋などが数多くあり、地割れが無数に走っていた。加えてライフラインの復旧は全国からの支援を受けているが目処

が立たない状況であった。

現地では柏崎市内に約60箇所、刈羽村に約15箇所の避難所が設けられており、富山市民病院医療派遣チームはその内3箇所の避難所の巡回を担当した。この時期は地震発生から1週間が経ち、落ち着きを取り戻しつつあるとはいえ、疲労が蓄積してきてそれまで抑えていた感情が湧き出してくる時期でもある。また、避難生活を送っている方の多くは高齢者であり、災害によるショックや環境の変化により体調を崩したり、持病を悪化させたりしてしまう心配もある。被災地における巡回医療支援は大変重要と考えられ、私たちは被災した方々の心情に配慮しながら各避難所を1日3回巡回し、体調や精神面のサポートを行った。

実際、普段は高血圧を指摘されたことがなくても高度の血圧上昇が認められる高齢者や、ストレスからと思われる胃腸症状を感じていながら言い出せない中学生、そして心身共に疲労して帯状疱疹を発症している女性などが見うけられた。これらの方々には投薬を

行ったり処置を行ったりしたが、被災者にとって大切なのは、話を傾聴するなどのメンタルサポートが何より重要と感じた。

わずか3日間の派遣であったが、復興はこれからであり、今後さらに健康を害される方が増えることも予想される。被災された方々の1日も早い健康回復を祈り、後を引き継ぐ医療支援チームに症状や精神的な問題点などのレポートを託して柏崎を後にした。



↑ 診療の様子

7ページ写真上：現地に到着準備にかかる→
7ページ写真下：倒壊した家屋↓

院長への手紙

待ち時間に関してのご意見

◆ご意見1

今の時刻は14時20分。9時から待つこと5時間あまり。「具合はどうですか？」と聞かれることもなくひたすら待っていますが、あと何時間待てば診察していただけるのでしょうか。今日中に帰れるといいですけど、一言「お待たせしてすみません」くらい言えませんか？

★お答え

診療まで長時間お待ちいただき、申し訳ございません。ご意見のように、お待ちいただいている方への心配りが不十分であると思います。勿論、待ち時間を短くすることが最も大切ですが、それに加え、皆様への心配りを行うことが出来る優しいスタッフにいるよう、接遇についての教育を行ってまいります。

◆ご意見2

胃の内視鏡検査をうけに来ました。午前8時40分に受付をして終了したのが、午前11時50分でした。今、会計を待っているところです。現在の時間は12時5分です。少し時間がかかりすぎではないでしょうか？じっと待っているのは苦痛ですね。せめて院内にくつろげる所があって、時間がきたら呼んでいただけるようなシステムがあったらうれしく思います。支払い済みでした。現在の時間は12時13分です。

★お答え

大変長時間お待たせして申し訳ありません。待ち時間を短くするよう努力してまいります。また、ご意見のように、ゆっくりとくつろいでいただける場所があればと思いますが、現状ではなかなか適当な場所がなく、皆様にご迷惑をおかけしています。ポケットベルにて、検査の時間がくればお知らせすることが出来ます。スタッフからのご説明も不十分であったかと思いますが、ポケットベルにつきましては、外来にてお貸しすることが出来ます。お知らせいただければ、お貸し致しますので、御協力をよろしくお願い致します。

YES NO

「院長への手紙」にて、皆様から頂きましたご意見にお答えいたします。これからも、病院に関しますご意見を頂きますよう、お願いいたします。皆様からご意見を頂くことによりまして、病院を改善して参りたいと存じます。

連載

ボランティア・エッセイ38 病院ボランティア 石森貞夫 『力戦奮闘』

▽ 日本列島は、このところ渇水から一転して4号台風が荒れたり、中越沖地震・柏崎刈羽原発の想定外の地震のツメ跡を残して、反省すべき事柄が多くあり、参議院選挙も各党は力戦奮闘するも、今後の日本全体の国民の生活を左右する課題を抱えて、暑い夏が訪れています。

▽ 大関琴光喜が誕生して、『力戦奮闘』相撲道に精進する最年長昇進は、新入幕から44場所、土俵で光り輝き、ファンを喜ばすという佐渡ヶ嶽親方(元横綱琴桜)から頂いた「琴光喜」というしこ名を、横綱朝青龍を倒すことを一番の目標に、今後魅力的な大関を目指して頑



張って下さい。

▽ 北京五輪が1年後に開催される中国では、相次ぐ食品トラブルが発覚し、「食の安全基準」が厳しい日本の食品管理を見習い、全世界では食べ物に関する安全・安心意識が急速に広がっていますが、北海道のモラルのない企業での食肉混合・表示の期限切れなど、消費者には危険な食物がわからない世の中になっていますから、スーパーでの買い物には目を光らせましょう。

▽ 昨年の自殺死亡者が3万人以上、交通事故による死亡者は7千人など、約5倍の自殺者を数えと新聞は報じますが、山梨県青木ヶ原樹海では、「借金で自殺しないで」と看板をたてて、樹海での昨年350名以上の自殺者を防止する運動を始め、対人関係やリストラ・多重債務で苦しむ家族を救うために努力中ですが、自殺者の60歳以上が34%、約40%が健康問題だそうで、医療の立場からも「うつ病」の正しい理解と、精神疾患への対応から、予防・介入・事後対応など地域連携医療として取り組みを行ない、思い止まって死神から救う道はないのでしょうか。

▽ 「老・病・死」の苦悩に積極的に向き合い、その苦悩を少しでも緩和し、生きるエネルギーを共にしていくため『ビハラー活動』があり、ビハラーとは心身の安らぎ・くつろぎ・休息の場所とされ、活動の願いは5つの方向性をもっており、①広く社会の苦悩にかかわること、②自発的にかかわること、③相手の心に

聴くこと、ケアを必要とする方々と相互の信頼関係を育てる、④医療・福祉と共にあるとされ、病院や施設では、医師・看護師・ケースワーカーなどとチームワークが大切とされ、⑤深いのちを見つめることで、今ここに生きている意味を問う活動です。

▽ 現代社会は「勝ち組み」「負け組み」と区別される格差社会があり、自殺者が3万人以上を超える中には、親が子を殺し、子どもが親を殺す痛ましい事件が多発し、「してはならない事」「やらなければならない事」の分別する力が、今求められています。心のブレーキがあると「いのち」を軽視することなく、家庭・学校・職場など人が育つ環境を、人間の情操(心の栄養)を育てる役割が注目され、どう生きるかがいのちの大切さを自覚する時だそうです。

▽ 365日24時間商売を宿命とし、手術室という命の現場で働く、世界屈指の外科医“幕内雅敏”氏は、30年以上のキャリアから、年200回以上の手術をこなして、腫瘍などの摘出で患者を救っている体験談が過日のNHK「がんと闘う」プロフェッショナルで紹介され、まさに力戦奮闘どんな困難な手術でもやっていくには、手術の記録を残して、失敗の原因を学ぶ力を養うことから、限界との闘い、医療に対する厳しさから、最後には患者さんが元気になって感謝されることが、喜びのある大きな仕事を苦勞してやって、初めて深い喜びが生まれて来ると語られた事が、印象的でした。

イベント デイケアコンサート

8月10日、3階講堂で、みさきバンドと市民音楽ボランティアグループによるデイケアコンサートが行われました。大正琴の演奏に合わせて、みさきバンドの皆さんが「海」や「世界にひとつだけの花」を熱唱していました。深い澄んだ音色に聴衆は心地よいひとときを過ごしていました。他にも、トランペットやトロンボーン、マラカス、シンバルを用いて聖者の行進などの演奏がありました。



■今月のふれあいギャラリー(玄関ホール2階)

9月7日から9月28日まで、ハサミの切り絵展「あそび」(浅田臣枝さん)を展示しています。待ち時間などに気軽にお立ち寄り下さい。8月17日から展示しておりました「第3回花フレンド押し花アート展」(竹林益子さん、竹林押花教室の皆さん)は9月7日で終了しました。有り難うございました。次回は中川重信さんの版画展を予定しています。読者の皆様も作品を展示してみませんか。また、作品の感想をお聞かせください。ご連絡をお待ちしております。

■今月のイベントと院内の動き

- 8月4日(土)：東病棟の改修工事に引き続き、西病棟の改修に着手します。先ずは西病棟3階の改修工事のため、8月4日に西病棟3階が東病棟6階に移動しました。皆様にはご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。
- 8月10日(金)：3階講堂でみさきバンドと市民音楽ボランティアグループによるデイケアコンサートが行われました。(7ページ参照)
- 8月21日(火)～23日(木) 午前10時30分：そば打ち実演を行いました。21日(火)は4階・6階デイルーム、22日(水)は8階デイルーム、23日(木)は南4階デイルームと東3階プレイルームで、職人の本格的なそば打ちを鑑賞して頂きました。(3ページ参照)
- 9月3日(月)：正面玄関ロビー右側に地域医療連携室と医療相談室が移設され、「ふれあい地域医療センター」としてリニューアルオープンしました。(1ページ、4ページ参照)



ふれあいギャラリーより
「Anniversary」(バラ・ハギ：竹林益子さん)



ふれあい地域医療センター・オープン記念式

■編集コラム

今、患者呼称をどうするかが問われています。「患者様」、「患者さま」、「患者さん」、「患者の皆様」・・・とまさに様々な呼び方で呼ばれています。読者の皆さんはどれが医療の現場にふさわしいと思われるか。医師はずいぶん昔から常識的に先生と呼ばれていますが、それは専門知識への敬意の表れです。一方、患者本位の医療の中では、医師も看護師も患者も皆対等の立場で接することが医療の質の向上に重要です。だから、「患者様」という呼び方をすることでホスピタリティー(おもてなしの心)の意識を高め、医療者側がへりくだる意図があるわけです。しかし、これで平等な関係が築けるのでしょうか。医療の質の向上は図られるのでしょうか。

病院に市場原理が入り込んで、患者を顧客・消費者のようにとらえようとする風潮が芽生えました。しかし、どんなに良いサービスを受けたからといって、もう一度病気になりたいと思う人はいらっしゃいません。むしろ何となく小馬鹿にされた感じを受けたり、逆に自分が偉いという錯覚に陥ったり、弊害も多いようです。

規則として患者呼称を統一しなくてはならないということじたいが、良好な関係を築く上でそもそもおかしいのではないのでしょうか。「さん」はもともと敬意を表す話し言葉なので、会話の中では「さん」の方が親しみが湧きます。公的性格の強い文書は「様」で問題ありませんし、医療費を頂く窓口では、顧客・消費者としての意味合いが強いので「様」の方が良いのかもしれませんが、どれかに統一しようとするのではなく、日本語の良い面を引き出して、それぞれふさわしい言い回しを使い分けることで、医療サービスの質向上につなげようとするのが大切です。

総編集長：病院長 泉 良平
編集部：齋藤勝彦・島竹恵美子・石森貞夫
村崎 進・松下桂子・高島裕子・川口 宏

発行：富山市立富山市民病院広報委員会
〒939-8511
富山市今泉北部町2-1

<http://www.tch.toyama.toyama.jp/>

電話 076 (422) 1112
FAX 076 (422) 1371



富山市立 富山市民病院

